

学校評価シート 2024年度 自己評価

I 自己評価

1. 本園の教育目標

建学の精神

『あかるく、たのしく、あたたかく、子どもにとっての第二の家庭になる幼稚園』

教育目標

1. よい友だち関係がつかれる子
2. 気持ちの豊かで明朗な子
3. 創造性に富む、個性豊かな子

教育目標を達成するために

1. ひとりひとりを大切に、心身のバランスのとれた成長を促す保育を行っています。
2. 集団での保育を通してよい友だち関係がつかれる子どもに育つお手伝いをします。
3. 四季折々の自然の移り変わりに眼を向けて感性を養うお手伝いをします。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ① 「主体的・対話的で深い学び」について、教員が実践する中で、共通理解を深める。
- ② 子どもの興味・関心を育てる環境づくりとはどのようなことか考えていく。
- ③ 要支援児や援助が必要な子どもに対する対応を考えていく。
- ④ 業務の見直しや計画を改善する

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	評価 (※)	評価の理由
(1) 「主体的・対話的で深い学び」について、教員が実践する中で、共通理解を深める	A	園内研修や日々の取り組みを伝え合う中で、少しずつ互いの保育観を共有したり理解したりすることができるようになってきた。
(2) 子どもの興味・関心を育てる環境づくりとはどのようなことか考えていく	A	一人一人が意識的に保育を計画し、保育を工夫して行ってきた。子どもの興味関心をもとに、取り組みは深まってきた。
(3) 要支援児や援助が必要な子どもに対する対応を考えていく	B	支援に対する理解が深まっており、ひとりひとりのスキルも向上している。
(4) 業務の見直しや計画を改善する	C	業務の見直し、改善は進んでいるが、時間が限られる中で計画性が必要。
(5) 保護者に対し、園の活動を様々な手段で伝え、理解を得ようとしている	A	ドキュメンテーションをはじめ、保育の内容を伝えようと工夫してきていることが、保護者アンケートに反映されている。

○結果 (※) について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
教育課程を考えながら保育活動を考える	具体的にどのように保育活動と結び付けていくか、それぞれが楽しみながら、コーナーづくりや素材を研究する
学年全体の子どもたちに目を向ける	チーム保育を進めるため、自分の担当しているクラスだけではなく学年全体の子どもの育ちを意識する
みんなに目を向けて支え合う	お互いがお互いを支え合う気持ちを持ち、わけへだてのない職場環境づくりを意識することで楽しく生き生きと働くことができるようにする

II 学校関係者評価

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

評価目標の設定は適切であった。

2. 評価結果の内容は適切であったか

時間管理を意識して仕事に取り組む一方で、様々な時間帯で働く職員との情報共有や保育計画の話し合いなど十分な時間が取れてないことが、職員の自己評価が厳しくなっているのではないかと。

また、全体的に職員の評価が厳しい要因として A~D という評価のやり方を変えたほうがいいのではないかと。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

前年の振り返りを踏まえ、保育者が考察しているので、適切である。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

今年度の評価に基づき、十分に課題が上げられていると思う。保育に対しては力を注ぐことができる環境なのかもしれないが、他の業務の見直しをさらに進み働きやすい環境が整うといいと思う。

III 財務状況評価

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。